

東北版

社 東京都中央区日本橋茅場町
 2-2-2 〒103-0025
 TEL 03-5642-7011
 FAX 03-5642-7005

2工場で稼働順調、第3工場も着工へ

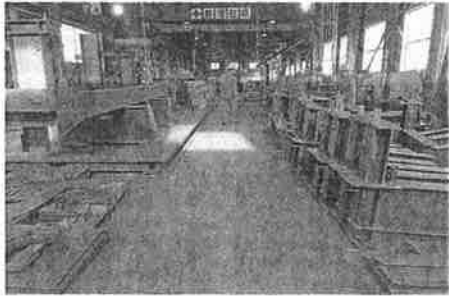
市川スチールエンジニアリング 秋田工場(能代)



市川社長

市川スチールエンジニアリング(本社・東京都江戸川区、市川幸司社長、Hダグリード)秋田工場(秋田県能代市)が順調に稼働している。

同社は1964年に東京で創業し、現在の年間加工能力は全社合計で8500ト。千葉県鎌ヶ谷市に鎌ヶ谷第1工場があり、関東の他地区にも工場やヤード3拠点がある。秋田第1工場と同第2工場はそれぞれ能代市能代町と市二井田白山にあり、同第3工場を同市扇田扇淵の能代工業団地に新設する計画で、来春着工を予定している。



秋田工場第1工場内観

秋田工場は2017年に操業を開始した。現在は60人体制。うち30人は経験者、30人は県内で新規採用した。経験者ノウハウの共有を図り、人材が行き来しやすいよう、千葉の工場と同待遇としている。市川社長は

◆**自社便で輸送コスト圧縮**
 同社では首都圏の大型物件向け鉄骨を中心に手がけている。大型トラックを5台保有し、自社便で輸送コストを圧縮。現場遅延に対応する必要もあるため、現在、第2工場の敷地内にヤードを新設中だ。20×100坪と20×50坪を各2ライン、今月中には施工が完了する予定。第3工場の完成後は第1工場から移転する予定。まずは80人とし、その後



若手もベテランも活躍(秋田工場第1工場)

◆**秋田県に40年前から地縁**
 市川社長自身は東京出身だが、もともと秋田県と縁が深い。40年前の20歳の時、能代市のSグレートファブ(当時)へ手伝いに来たのが最初の縁だ。十数年前から秋田県内のファブと付き合いができて毎年数回、来秋してきた。自宅は都内にあり家族もそちらにいるが、

工場を拡張して1000人体制とする構想だ。市川社長は「社員とその家族の生活を守ることを第一に考えている。『市川に入って良かった』と自信をもって言われる会社になりたい」と言う。
 社内では「フレンドリー」を基本に、風通しの良い社風を心がけている。取引先とも友好を心がけ、「困った時は市川に」と頼られる会社を目指す。現在すでに、千葉の工場では「忙しい中でも、安心して仕事を預けられる」と定評があり、今後、秋田県でも「相談される」「助け合える」ファブになりたいという。



第2工場では自社使用のクレーンなどを製作中

市川社長は「せっかくここでヤードを準備中。すぐそばを米代川が流れ、白神山地を遠望する。3棟あり、A棟は一次加工、B棟はチャンネル、アンクルなど、C棟は小梁や金物などの製作を行っている。2工場合わせて溶接15人、組立14人、検査・出荷・仕上げ15人、設計10人、他6人の60人体制だ。

現在は能代市内にも家を構え、社員とその家族、取引先らを招いて食事会やレジャーを楽しむこともある。
 秋田工場を構えたもう一つの理由は、地元で働ける場所を作り、若い人が住み続けられ、地域経済の維持向上を図ることだ。能代市は世界遺産のナマハゲで有名な男鹿半島の北、世界遺産の白神山地の南に立地し、日本書紀に淳代(ぬしろ)と記された歴史ある地。江戸時代は北前船の港町、戦前は秋田杉の集散地として栄えた。「能代七夕」祭りを観光など地域活性化に結びつける努力もしているが、多くの地方と同様、少子高齢化の傾向にある。

◆**付加価値の高い鉄骨製作**
 第1工場は3棟あり、向かって右の1号棟で溶接などを行い、中の2号棟で組み立て、左の3号棟から出荷となる。伊藤淳一工場長は「できるだけ付加価値の高いものを手がけるようにしている」と説明する。
 第2工場は第1工場から車で5分ほどの場所であり、